

シンプル生理学 改訂第8版 第2刷 正誤表

下記の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	行, 箇所	訂正前	訂正後
p55	本文 下から4行目と5行目	徐派	徐 <u>波</u>
p56	本文 上から10行目	伸展刺激によりか開口し,	伸展刺激により開口し,
p59	本文 上から3行目	脊椎管	脊 <u>柱</u> 管 (脊 <u>椎</u> 管)
p60	本文 下から2行目	これを筋節 (サルコメア) という	これを筋節 (<u>ミオトーム</u>) という
	本文 下から11行目の見出し	3. 皮膚節と筋節	3. 皮膚 <u>分</u> 節と筋 <u>分</u> 節
p84	本文 上から13~14行目	新しい研究では苦みは舌根部よりも舌尖部で閾値が低いことがわかった。うま味についてはいまだ不明である。	<u>2000年以降の研究により舌全体の味蕾が5種の味覚受容器を持つ味細胞を持っていることが明らかにされた。</u>
	本文 下から1~2行目	新皮質中心後回基底部の顔面からの皮膚感覚感受部位に至る (図6-33)。	新皮質中心後回 <u>の体性感覚野の下部に接した部位にある一次味覚野 (ブロードマンの43野, 図9-14参照) に至る。</u>
	「図6-33 味覚の伝導路」の図中文字	大脳皮質	大脳皮質 <u>一次味覚野</u>
p86	本文 上から14~15行目	Aδ線維である。	Aδ線維と無髄のC線維である (図6-36, 表2-1参照)。
p88	図6-38 「延髄」の部分	楔状束核	薄束核
		薄束核	楔状束核
p94	本文 下から5行目	皮膚節	皮膚 <u>分</u> 節
	本文 下から5~6行目	皮膚節の規則	皮膚 <u>分</u> 節の規則

p97	表7-2 α_2 受容体の特徴	Gi, cAMP \uparrow	Gi, cAMP \downarrow
p106	本文 下から2行目	II, III, IV群以下の細い線維で	II, III, IV群の細い線維で
p111	本文 上から3行目に一文を追加		両側前庭迷路機能障害者では、床面が傾いても前庭迷路反射が起こらないので、身体の平衡と頭位の回復ができず、転倒してしまう (図8-13b) .
p115	本文 上から8行目と11行目の冒頭	線状体	線條体
p219	本文 下から9～10行目	下腹神経と陰部神経は内・外肛門括約筋を収縮させ、骨盤神経は内肛門括約筋を弛緩させる。	下腹神経と陰部神経の興奮は内・外肛門括約筋を収縮させ、骨盤神経の興奮は内肛門括約筋を弛緩させる。
p268	本文 上から16行目	血管の直径の4乗	血管の半径の4乗
p287	本文 下から3, 4, 6行目	機能的残基量	機能的残気量
	「図16-9 肺と胸壁の圧-容量関係」の図中文字と解説文	機能的残基量	機能的残気量

(2023年1月 株式会社南江堂)